
六本木アートナイト 2019 [インクルーシブ・ツアー]

報告書



六本木アートナイト実行委員会



1. 本事業の概要

六本木アートナイトでは昨年度(2018年度)より、さまざまな人たちと六本木アートナイトを巡る「インクルーシブ・ツアー」を開催している。昨年度は、NPO法人スローレーベルの協力のもと、バリアフリーなツアールートを開発。六本木ヒルズ内を巡るツアー、六本木ヒルズ～東京ミッドタウンまでを巡るツアーを開催した。今年度は、視覚障害がある人とともに巡るツアー、車椅子やベビーカーを利用する人と巡るツアーを実施。ツアー制作にあたっては、事前に障害当事者とともにリサーチを行い、安全かつ楽しめるルートを検討。広報物としてバリアフリーマップの制作およびウェブサイトでの公開を行った。またツアー実施後、六本木アートナイトのアクセシビリティについて理解を深める報告会を行った。

企画協力: NPO法人エイブル・アート・ジャパン(以下、エイブル・アート・ジャパン)

〈目的〉

- ・ 六本木アートナイトをインクルーシブ(社会包摂的)にするためのリサーチをする
- ・ 当事者の声を聞き、現状を把握する
- ・ ツールの充実により広く伝え、参加の機会を広げる
- ・ より多様な参加者が物理的・心理的バリアを感じず参加できるようにする
- ・ 多様な人たちとアートを巡ることで、新たな鑑賞の視点を得る
- ・ 実践した結果を報告会などで一般に開く

〈準備及び本番のプログラム詳細〉

● ツアールート検討リサーチ

第1回

日 時: 4月12日(金) 10:30～13:30 打ち合わせ、下見(六本木ヒルズ)

参加者: 5名(六本木アートナイト事務局、エイブル・アート・ジャパン)

第2回

日 時: 4月23日(火) 16:30～20:00 打ち合わせ・下見(街中周遊)

参加者: 4名(六本木アートナイト事務局、エイブル・アート・ジャパン)

第3回

日 時: 5月9日(木) 13:00～15:30 リードユーザー(視覚障害者)と下見

日 時: 5月9日(木) 15:30～17:30 リードユーザー(車椅子ユーザー)と下見

参加者: 7名(六本木アートナイト事務局、エイブル・アート・ジャパン、リードユーザー)

最終確認

当 日: 5月25日(土)26日(日) 11:00～12:00 作品及びルート確認

●ボランティア研修

5月14日(火) 当日運営ボランティア研修

対 象：MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社 企業ボランティア 8人

講 師：日本パラリンピアンズ協会 葭原滋男

参 加：エイブル・アート・ジャパン、六本木アートナイト事務局

内 容：視覚障害者向けの誘導方法、声のかけ方などについてレクチャー

●インクルーシブ・ツアー

ツアー① 「言葉でゆっくりツアー」 六本木ヒルズ内

視覚障害の人と一緒に巡るツアー ※解説・誘導用にインカムを使用

日 時：5月25日(土) 14:00～15:30

参加者：30名

(一般申し込み13名、森美術館ラーニングキュレーター1人、ファシリテーター1名、リードユーザー1名、付添い2名、コーディネーター4名、ボランティア6名、六本木アートナイト事務局2名)

リードユーザー：光島貴之(視覚障害／現代美術家)、松本晶子(視覚障害、社会人)

ツアー② 「バリアフリーツアー」 六本木ヒルズ内 ※猛暑のため屋内ルートに変更

車椅子やベビーカー利用の方と一緒に巡るツアー ※解説・誘導用にインカム使用

日 時：5月26日(日) 14:00～15:30

参加者：26名

(一般申し込み12名、森美術館ラーニングキュレーター1人、リードユーザー1名、付添い1名、コーディネーター3名、ボランティア6名、六本木アートナイト事務局2名)

リードユーザー：三ツ木俊之(車椅子ユーザー／バリアフリーコンサルタント)

●報告会

LOVE LOVE LOVE LOVE展 オープンミーティング

アクセス・アート・プログラムのミライ！ここ東京から考える。

日 時：7月16日(火) 10:30～12:30

会 場：東京ミッドタウン・ホールA

参加者：約40名

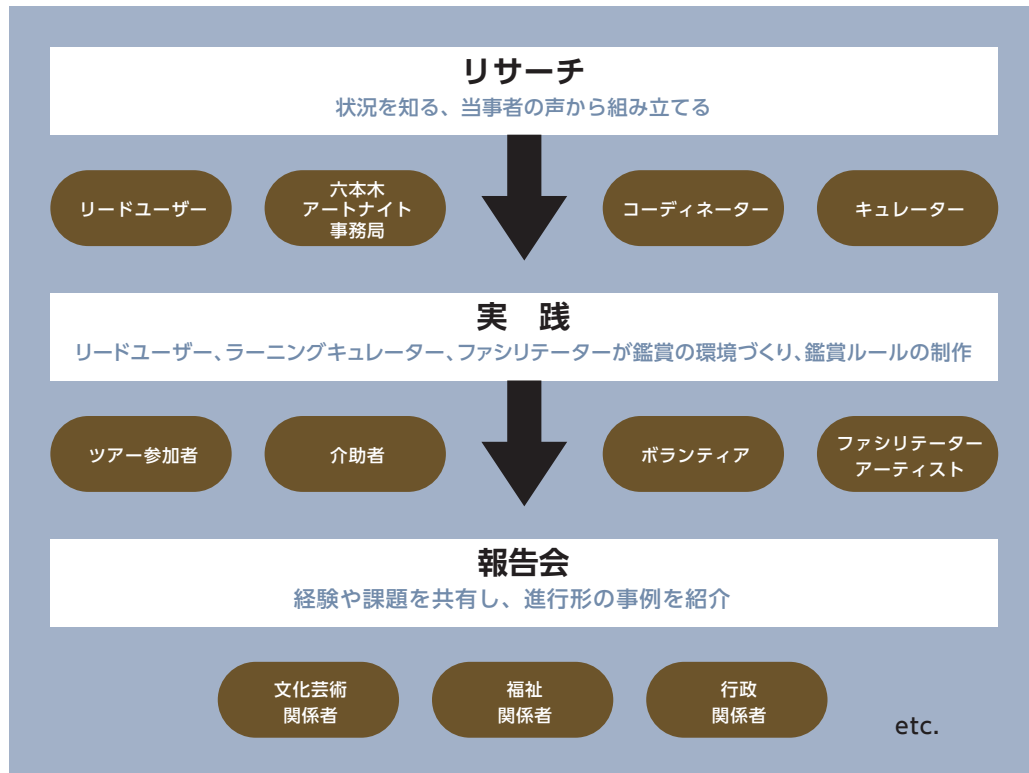
主 催：日本財団DIVERSITY IN THE ARTS

企画協力：六本木アートナイト

2. 事業の構成

●六本木アートナイトのアクセシビリティを考えるために

単発のイベントのみで完結することなく、制作過程や報告会などで様々な人を巻き込み、様々な立場の人の意見を入れながら考える機会とする。そのため、① リサーチ→ ② 実践(ツアー)→ ③報告会の3部構成でプロセスと検証も丁寧に行うこととした。



今年度は、視覚障害者の人、車椅子やベビーカー利用の方と一緒に巡るツアーを企画した。

昨年度より一歩進んだより深い鑑賞体験のために、森美術館ラーニングキュレーターに参加してもらい、作品の案内や考えるポイントを紹介した。

また各ツアーごとに障害当事者のリドユーザーを配置し、ツアールート開発時から参加してもらうことで、当事者の視点も含めて相互に意見交換しながら、より安心でより楽しめるルート開発を行った。

視覚障害者と一緒に巡るツアーでは、見える人が作品を言葉に表し、視覚障害者がそれに対して質問をするという対話により、新たな視点の発見がある鑑賞体験となった。

車椅子やベビーカー利用者と巡るツアーでは、回遊しづらい六本木ヒルズ内をバリアフリーに回れるルートを紹介し、六本木アートナイト以外でもまた六本木ヒルズを訪れたいという声も聞かれた。

さらに報告会での発表により、取り組みの経験や課題について可視化・共有し、六本木アートナイトだけにとどまらない、アートへのアクセシビリティについて発展的に考える機会を得ることができた。

3. ツアープログラム・制作詳細

ツアー① 言葉でゆっくりツアー(視覚障害者と巡るツアー)

	ルート(所要時間90分)	ツアーの様子	アクセシビリティの工夫など
1 ▼ ▼ ▼	集合場所: ウェストウォーク入り口 グループに分かれて自己紹介など	  	【会場アクセスへの対応】 ・希望者に対しては、駅までボランティアスタッフが迎え対応。 ・集合場所がわかりにくいいため、ママン下などに案内スタッフを配置。 ・六本木ヒルズの立体模型を使用し、視覚障害者にも場所のイメージをつかんでもらった。 ・活発なコミュニケーションのため、3つにグループ分け。1グループに視覚障害者1人、コーディネーター1人、ボランティア2人ずつが入る構成とした。 ・全員に案内や解説の声が聞こえるよう、インカムを使用。キュレーターとファシリテーター(光島さん)の二人が先頭でマイクを共有しながら解説を行った。
2 ▼ ▼ ▼	ウェストウォーク内 ●鑑賞作品 大村 雪乃+松田 暁+堀 和紀 「唄う蜘蛛の巣」 ジョシュア・オコン 「下(アンダー)」 大西康明「Circulation」	 	・森美術館ラーニングキュレーターが作品を紹介しつつ、参加者同士で対話し作品を楽しんだ。 ・ファシリテーター(光島さん)から、言葉での鑑賞 4つのルールを提示。積極的な対話を促した。 《二つのnoと二つのYes》 1. 静かに鑑賞する(no) 2. 聞くだけ(no) 3. 答えはいくつもある(Yes) 4. おもしろいところを探す(Yes) ・盛り上がった会話はチェックしておき、ツアー後に全員で共有。

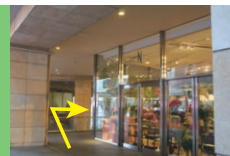
	ルート(所要時間90分)	ツアーの様子	アクセシビリティの工夫など
3 ▼ ▼ ▼	エレベーター[K]で B2F(けやき坂通りレベル)へ		【使用エレベーターの検討】 ・使用するエレベーターについては、位置や行き先だけではなく、利用頻度も検討。利用度が高いエレベーター(美術館入り口のGエレベーターなど)は避けることで、ツアー団体でもスムーズに移動できるルートとした。
4 ▼ ▼ ▼	アリーナ ●鑑賞作品 チェ・ジョンファ 「フルーツ・ツリー」 つちやあゆみ「昼の音、夜の音」	 	・アリーナフロアに移動したタイミングで、必要な方にはトイレを案内。(近くにだれでもトイレあり) ・メイン作品については作家のステートメントをラーニングキュレーターが読み上げ、イメージを共有した。 ・音が出る作品「昼の音、夜の音」は非常に盛り上がった。触れられたり、音が出る作品は好評だった。
5 ▼ ▼ ▼	毛利庭園 セドリック・ル・ボルニュ 「欲望と脅威」		・芝生広場で休憩。自由に対話する時間とした。 ・水分補給など。 ※非常に気温が高かったため、熱中症対策のためあらかじめペットボトルなどを準備した。
6	エレベータ[F]で1Fへ		
7	毛利庭園 ママン鑑賞		・触れる作品。作品の素材や質感を感じてもらい、「何が見えるか」を互いに共有しながら、作品の意図を森美術館ラーニングキュレーターより紹介した。
8 ▼ ▼ ▼	ウェストウォーク 感想など共有 アンケート記入、終了		・障害の当事者、一般の参加者それぞれの視点から感想を共有。

● ツアールート【屋内ルート】

○ □ は鑑賞作品

3 利用頻度が高いGエレベーターは、待ち時間が長い、大きな車椅子でも利用可能。3階から森美術館へアクセスできる。

2 花屋を右手に見ながら右折し、奥の入り口に入るとKエレベーターが2台あるので、地下2階六本木ヒルズアリーナへ移動。



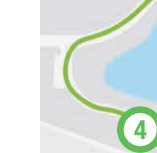
六本木ヒルズアリーナイメージベース



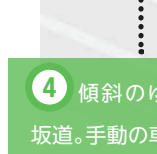
輪窓の〇



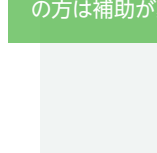
Photo: Takuji Shimura



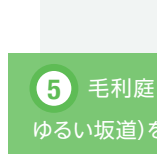
毛利庭園



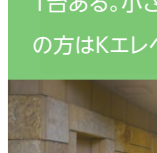
傾斜のゆるい坂道。手動の車椅子の方は補助が必要。



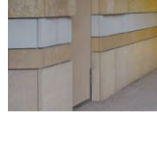
毛利庭園を出て、外部の道路(傾斜のゆるい坂道)を少し上るとFエレベーターが1台ある。小さいため、大きいサイズの車椅子の方はKエレベーターの利用がおすすめ。



GOAL



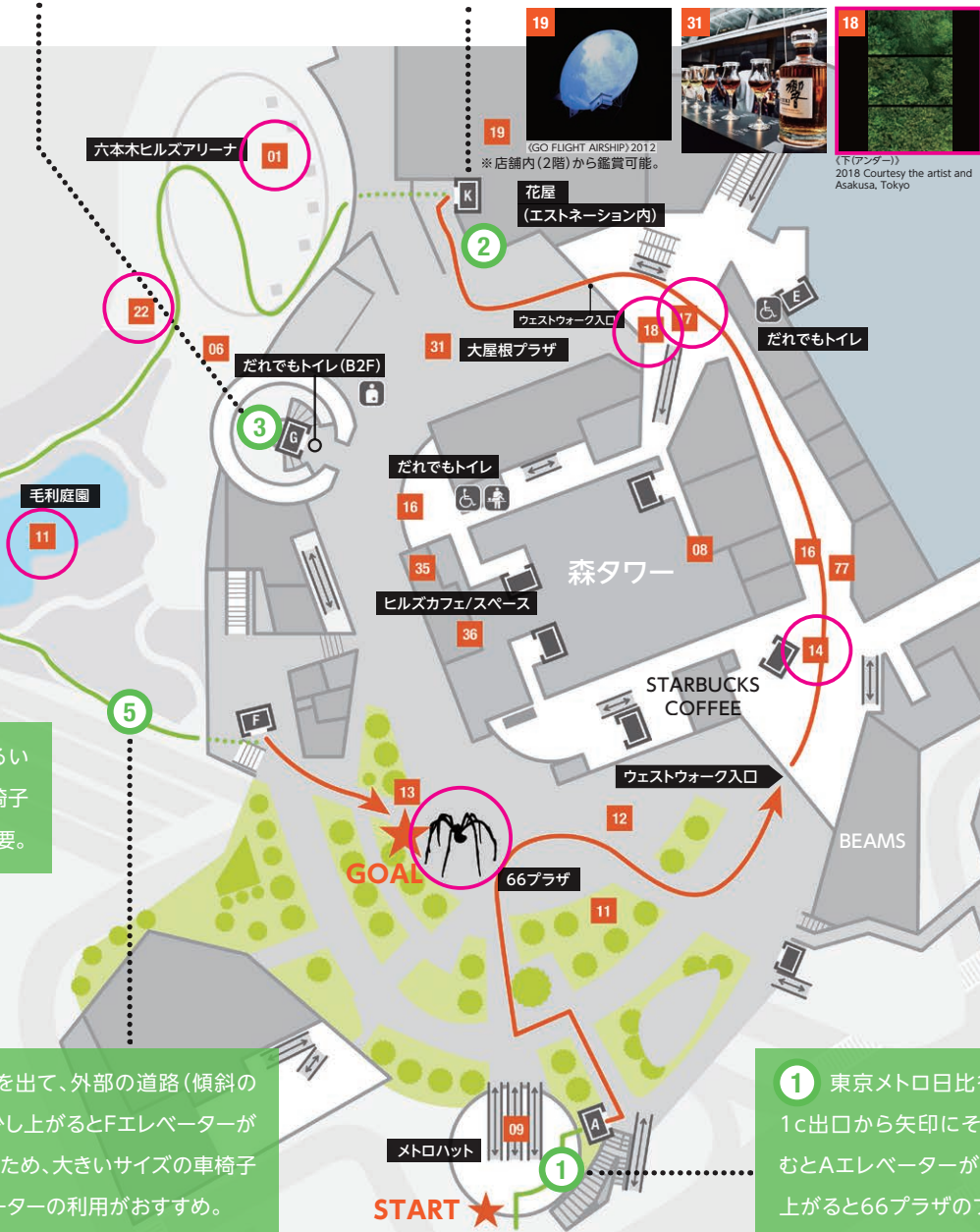
66プラザ



展示風景: ホルビエンナーレ2017



展示風景: ホルビエンナーレ2017



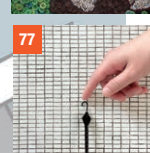
(下(アングル)) 2018 Courtesy the artist and Asakusa, Tokyo



(untitled) 2018 「水と土の芸術祭2018」(新潟)での展示風景



©Hiroyasu Shimo



77



14

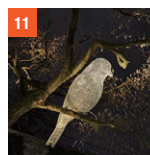


12

1 東京メトロ日比谷線六本木駅1c出口から矢印にそって右奥へ進むとAエレベーターがある。2階まで上がると66プラザのフロアに着く。



展示風景: ホルビエンナーレ2017



展示風景: ホルビエンナーレ2017

ツアー② バリアフリーツアー(車椅子やベビーカー利用者と巡るツアー)

	ルート(所要時間 90分)	ツアーの様子	アクセシビリティの工夫など
1 ▼ ▼ ▼	集合場所: ウェストウォーク入り口		【ルートの変更】 当初街中を移動する屋外ルートを予定していたが、猛暑のため屋内ルートに変更。 重度の障害がある方には事前連絡をして来場への心理的ハードルを下げてもらえるよう配慮した。
2 ▼ ▼ ▼	ウェストウォーク内 ●鑑賞作品 VIKI「Spin a Memories.」 大西康明「Circulation」 トロマラマ「ザー・ザー・ズー」 「戦いの狼」 さわひらき「エアライナー」ほか 上坂直「所在譚hidden is “Cells of the City”」	 	・ツアーを回るグループ分けでは、各グループに車椅子利用者1名、コーディネーター1名、ボランティア1名が配置されるよう調整。 ・移動の際は長い列となるため、運営メンバーで先頭・中盤・後方と担当責任者を決め、進行時の安全性の確認や、遅れたりはぐれたりしていないかの確認を行った。 ・森美術館ラーニングキュレーターの解説とともに、グループで自由に対話する時間を設けた。
3 ▼ ▼ ▼	エレベーター[K]で B2F(けやき坂通りレベル)へ		・利用頻度が低く、大きいエレベーターを使用。
4	アリーナ ●鑑賞作品 チェ・ジョンファ 「フルーツ・ツリー」 オレカTX「バスクのパレード」	 	・メイン作品を間近で鑑賞。 ・作家のステートメント朗読を、ボランティアの方に依頼。全員でつくりあげるツアーに。 ・パフォーマンス時間に合わせ移動、鑑賞した。

	ルート(所要時間90分)	ツアーの様子	アクセシビリティの工夫など
5 ▼ ▼ ▼	毛利庭園 セドリック・ル・ボルニュ 「欲望と脅威」		・庭園内の散策も、緑が多く好評だった。
6	移動～エレベーター [F]で1Fへ		・エレベーターまでは傾斜のある道のため、ゆっくり様子を見ながら移動。
7	66プラザ ママン鑑賞 パフォーマンス「/pskhē / プシュケー」		・タイミングよくパフォーマンスにも遭遇。
8 ▼ ▼ ▼	ウェストウォーク 感想など共有 アンケート記入、終了		・障害の当事者、一般の参加者それぞれの視点から感想を共有。

● ツアールート【屋内ルート】（実際の実施ルート。ツアー①と同様のルート）

○ □ は鑑賞作品

③ 利用頻度が高いGエレベーターは、待ち時間が長い、大きな車椅子でも利用可能。3階から森美術館へアクセスできる。

② 花屋を右手に見ながら右折し、奥の入り口に入るとKエレベーターが2台あるので、地下2階六本木ヒルズアリーナへ移動。



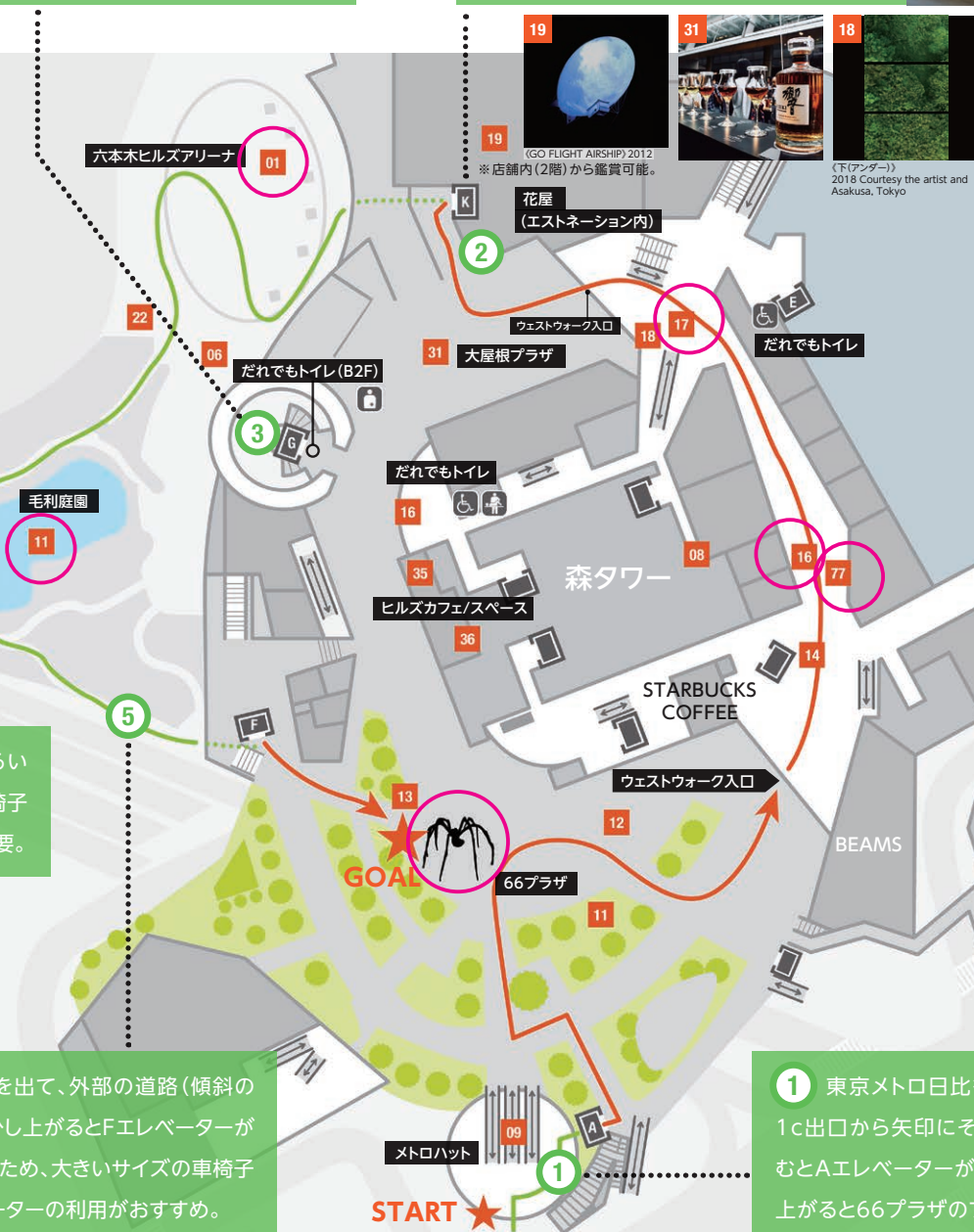
六本木ヒルズアリーナイメージベース



輪廻の○



Photo: Takuji Shimmura



④ 傾斜のゆるい坂道。手動の車椅子の方は補助が必要。

⑤ 毛利庭園を出て、外部の道路（傾斜のゆるい坂道）を少し上るとFエレベーターが1台ある。小さいため、大きいサイズの車椅子の方はKエレベーターの利用がおすすめ。



展示風景ホノルルビエンナーレ2017



① 東京メトロ日比谷線六本木駅1c出口から矢印にそって右奥へ進むとAエレベーターがある。2階まで上がると66プラザのフロアに着く。

○□は鑑賞作品

ツール展開

①バリアフリーマップ

2018年、2019年のリサーチの蓄積を生かし、バリアフリーマップを作成。印刷して各会場にて配布するとともに、ウェブサイトでも公開。より多くの人に、自由にバリアフリールートを楽しんでもらえることを目指した。

<https://www.roppongiartnight.com/2019/wp-content/uploads/2015/02/ran2019-barrier-free-map.pdf>

作成のポイント

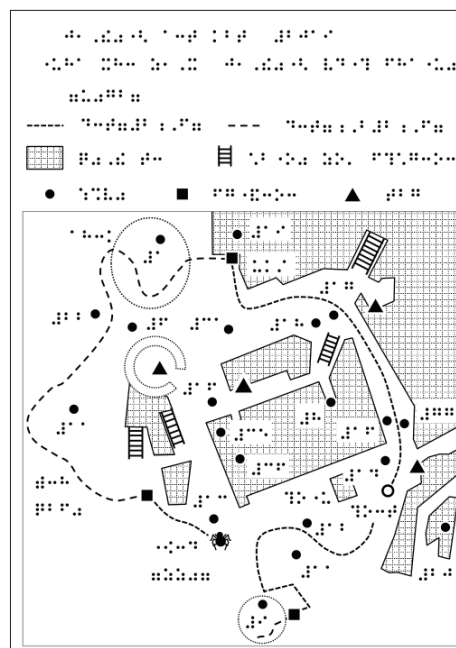
- ・エレベーターの位置、利用頻度
- ・トイレの位置
- ・駅へのアクセス方法
- ・坂の傾斜
- ・目印の確認

→六本木アートナイト開催時以外でも役立つような内容とした。



②ルートマップ立体コピー

視覚障害者と一緒に六本木ヒルズ内を巡る際に、「どこをどのように回っているのか」を実感してもらえるよう、ルートマップを立体コピーにて作成。



※制作：社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター

報告会

インクルーシブ・ツアーの実施報告会として、NPO法人エイブル・アート・ジャパンの協力のもと、日本財団DIVERSITY IN THE ARTSの主催するイベント「LOVE LOVE LOVE LOVE展プレイベント」内トーク企画「アクセスアートプログラムのミライ！ここ東京から考える」にて事例発表を行った。

【概要】

LOVE LOVE LOVE LOVE展 オープンミーティング アクセス・アート・プログラムのミライ！ここ東京から考える。

日 時：2019年7月16日(火) 10:30～12:30

会 場：東京ミッドタウンホール・A

登壇者：柴崎由美子(NPO法人エイブル・アート・ジャパン)、梅田亜由美(エドューケーター)、
熊谷薫(六本木アートナイト事務局)

入場料：無料

参加者数：約40名

※字幕・手話通訳対応

内 容：

事例紹介①六本木アートナイト

2018年と2019年のインクルーシブ・ツアーやアクセシビリティ対応の取り組みを中心に、これまでのアクセスアートについて紹介する。(登壇：熊谷薫)

事例紹介②アクセスアートの10年 エドューケーターからの報告

みんなの美術館、美術と手話プロジェクト、日本財団DIVERSITY IN THE ARTSを通じた、10年間の活動における変化や気づきを伝える。(登壇：梅田亜由美)

事例紹介①、②をふまえたディスカッション

事例紹介で出た「公共と市民の協働」というキーワードをもとに、提供する側と享受する側、といった一方向の関係ではなく、共につくるという意識の重要性や、その実現のために組織から考える(仲介者を立てたり、実行委員会など多様な属性の人で組織を作るなど)必要性について議論された。

またアクセスアートの広がりについて、今後に向けての議論も交わされた。



4. 実施体制

- 全体運営：六本木アートナイト事務局
- 企画協力・コーディネーター：NPO法人エイブル・アート・ジャパン
- ルート開発協力：光島貴之（視覚障害／現代美術家）、松本晶子（視覚障害、社会人）、
三ツ木俊之（車椅子ユーザー／バリアフリーコンサルタント）
- 現場運営協力：企業ボランティア（MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社）
- 作品紹介：森美術館ラーニングキュレーター

今年度は、より深い作品鑑賞体験を目指し、NPO法人エイブル・アート・ジャパンと協働してツアーを企画制作。

【特記事項】

〈下見〉

- ・ ツアールート開発においては、障害当事者であるリードユーザーとともにルートを巡り、移動しやすさなどはもちろん、「トイレの使いやすさ」「休憩の頻度」「盛り込んで欲しい情報」などについても当事者の視点から検証を行い、より安全で楽しめるルート開発を目指した。特に以下の事例においては、当事者視点からの意見がツアーの内容や方針に大きく活かされた。
 - (1)視覚障害のリードユーザーより「今何が見えているのか、作品に関係ないこともたくさん伝えて欲しい。例えばブランドショップが並んでいること、香水の香り、水の音、ウイスキーイベントのインスタレーション・など。周りの様子の情報を伝えてもらえると、匂いや音で感じていることと今いる場所とが一致し、想像が広がる」とのリクエストにより、「言葉でゆっくりツアー」時は作品解説はもちろん、周辺環境についても細やかに伝え、街歩きならではの醍醐味につながった。
 - (2)視覚障害のリードユーザーからの、体験したり音が鳴る作品などにも触れてみたいという率直な感想から、「言葉でゆっくりツアー」では、体験型の作品を多く盛り込んだ。ツアーごとに紹介する作品を選ぶ基準となった。
 - (3)毛利庭園は、当初日中に観られる作品も少なくルートに入れないことも考えられたが、六本木の街に親しみのない人にとってはこの場の成り立ちや空間含めて面白いため必ず入れたいとの意見によって、ルートに盛り込むこととなった。結果、普段六本木に馴染みがない参加者からも、このような場所があるならまた訪れたい、という声があがった。
 - (4)休憩場所の検討時、公園のトイレを確認した際に「自分なら（汚くて）使いたくないなあ」という当たり前の意見をもらい、この当たり前の感覚を大切に、なるべく美しいトイレを利用できるタイミングを案内できるよう意識をしてルートを組んだ。

〈参加申し込みの受付〉

- ・ 参加申し込みの受付は、六本木アートナイト事務局内にて対応。特に申し込み方法の多様性確保の点から、ウェブフォームに加え電話、FAXでの申し込みも対応。電話対応については、障害対応についての様々な要望や問い合わせがあることが予想されるため、細かな対応マニュアルを作成。

問い合わせ内容の複雑性に依じて、【電話窓口担当→インクルーシブ・ツアー担当者→エイブル・アート・ジャパン(専門家)】という流れで情報共有・対応を検討し、参加者に不安を抱かせることのないよう心がけた。

- ・参加者にはあらかじめ、荷物の預かりができないため手荷物を減らすか周辺のロッカーを利用してほしいこと、天候次第でルート変更があること、などを連絡し、参加しやすさを心がけた。
- ・当日の専用電話を設けて当日のキャンセルや待ち合わせに関することを連絡できるように対応。

〈ツアー当日〉

- ・企業ボランティアの協力のもと、参加者の駅までの迎えや介助を行った。(参加へのハードルを下げ、参加意欲の後押しとなると考えている。) とくにボランティアについては事前研修も行い、現場対応への理解を深めた。
- ・より深い作品鑑賞体験を目指し、森美術館のラーニングキュレーターにも参加してもらい、現場での作品紹介をリードしてもらった。
- ・ツアー誘導・解説時にはインカムを使用。賑やかな環境かつ参加者が多い中でも、全員に声が届くよう対応した。
- ・ツアー2日目は、猛暑のため屋外ルートから急遽屋内ルートに変更。六本木アートナイト事務局、エイブル・アート・ジャパン、森美術館ラーニングキュレーターとそれぞれ協議の上、参加者の安全を最優先に迅速に判断した。また屋外ルートで予定していた鑑賞作品について、実際のツアー時間帯には鑑賞にベストな状態ではないとわかったことも、鑑賞体験の質を担保する観点から、ルート変更を判断する一因となった。
- ・ルート変更の際し、重度の障害がある参加者には事前連絡をして、来場への心理的ハードルを下げてもらえるよう配慮した。

〈事後：運営メンバー所感〉

- ・賑やかな場所かつ大人数での今回のツアーにおいて、インカムは効果的だと感じた。
- ・ツアー実施後、夜まであちこちの会場を回った。ツアー参加者と別会場で顔を合わせることもあった。通常、美術館でのツアーをする際は、閉館時間の問題もあり、ツアー参加者がその後も自身で会場を回る時間が少ないことも多いが、六本木アートナイトではツアー後も自身で回る時間的な余裕もある稀なツアーだと感じる。
- ・六本木アートナイトは通常の展覧会と違い、街全体に楽しめるものが沢山あるのが魅力。(参加者も事前に見たいものを調べて来ていた。その中にはツアーにない作品もあった。)
- ・ツアー参加後、すぐ帰るのではなく自身で六本木アートナイトを楽しむ方がいる。その際、作品の場所や空間の把握により、鑑賞の仕方を自由に選べる点でバリアフリーマップやルートマップ立体コピーが大いに活躍するのではないか。またサポートが必要な際に、ボランティアあるいは参加者同士と一緒にツアー後を楽しめるような工夫ができると良いのではないかな。
- ・アンケートを見ると実際に、参加者の美術やインクルーシブへの関心の高さを感じるため、今後はツアー後にもつながるような継続的なコミュニケーションについても可能性を探りたい。
- ・今回のツアー運営メンバーのそれぞれ(NPO法人エイブル・アート・ジャパン、森美術館ラーニングキュ

レーター、企業ボランティアのMHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社)が、今回初対面ではなく、これまで各所で関係を築いてきたメンバーであったことも、スムーズで安定した運営につながったと感じる。インクルーシブ・ツアーという、決して簡単ではない企画を共に成功させようという目的を共有できていた。

- ・全体運営・調整役である六本木アートナイト事務局が、当事者ユーザーやNPO側の提案に耳を傾け、ひとつひとつの課題や問題をクリアしていこうとしていたこと、またそれらを今後のツアーにつながるよう、事務局内(あるいは施設内)に共有し蓄積していこうとしていたことも、ツアーの充実度につながっていたと感じる。

5. 今後の課題 — より多様な人たちにアートナイトを楽しんでもらうために

●広報の工夫

スケジューリング: 告知は早めにリリース(遅くとも2~1.5ヵ月前)

- ・介護者の手配、体調を整えるなどが必要な人もいる。
- ・参加にあたって詳細のやりとりが必要な人もいる。

申し込み・連絡のツールは複数設定しておく

- ・ウェブフォームやメールだけでなく、FAXや電話、はがきなど、人によって使いやすいツールは様々。またウェブサイトなどでの告知は、視覚障害者対応として、読み上げソフトが読み込める原稿であることもチェックが必要。

広報ツールにおける情報伝達の工夫

- ・あらゆる人に情報を伝える平等性の視点から、告知ツールのデザインは重要。障害のあるなしに関わらず、だれでも同じように楽しんでほしいからこそ、楽しさの伝わるデザインでの情報伝達が大切。
- ・点字対応の広報物などの必要性も検討。

広報先の工夫

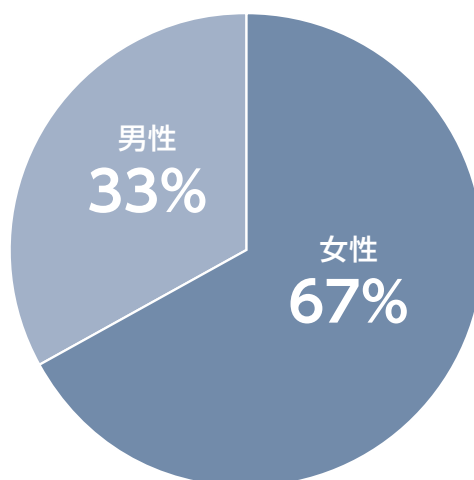
- ・福祉関係の場合、直接説明に行くなどが最も効果的。
- ・福祉施設からの団体参加なども今後検討していきたい。
- ・障害種別によっても情報を得る方法、ネットワークが違うため、特に届けたいターゲットにあわせて検討することが必要。

●参加者とのコミュニケーション

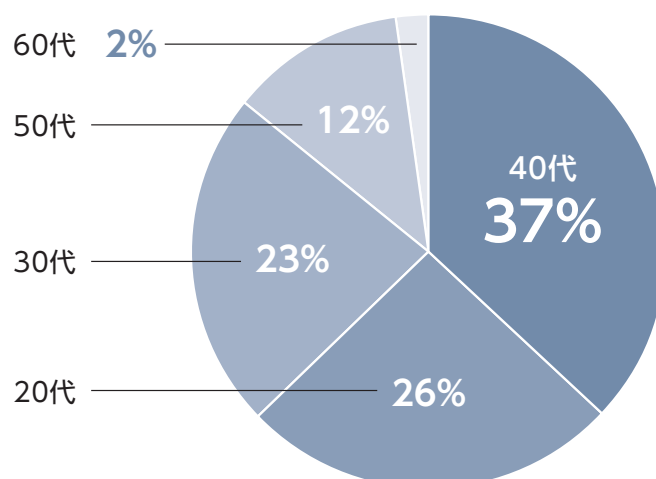
- ・必要なサポートについてのヒアリング(介助や迎への必要性など)
- ・トイレ休憩や必要な設備(介助ベッドなど)の確認。
- ・どのようなルートを回るのか? どのくらいの所要時間か? 必要な持ち物や気をつけることは? など、あらかじめ伝えられる情報はできるだけ共有し、参加への不安を少しでも取り除く工夫を。
- ・障害のある方がツアー後一人で他の場所を回りたいと思った時に、サポートが必要な場合には、ボランティアあるいは参加者同士と一緒にツアー後を楽しめるような工夫ができると良いのではないかな。
- ・参加者からは、アートやインクルーシブへの関心の高さを感じるため、今後はツアー後につながるようなコミュニケーションのフォローも要検討。

6. アンケート結果

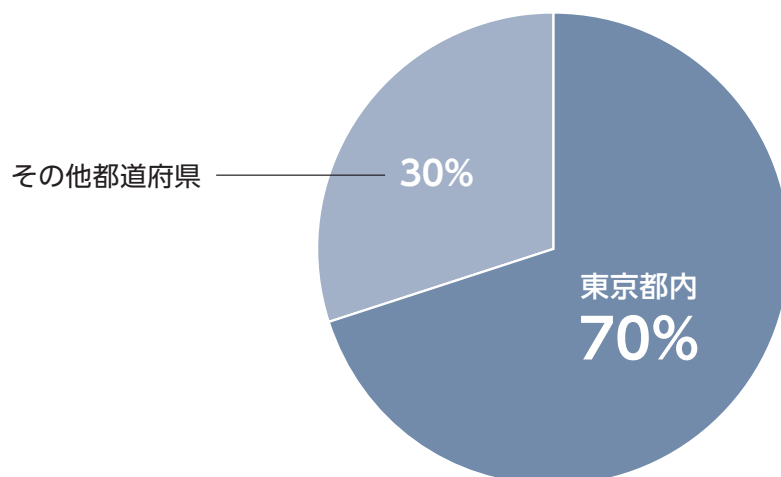
① 性別



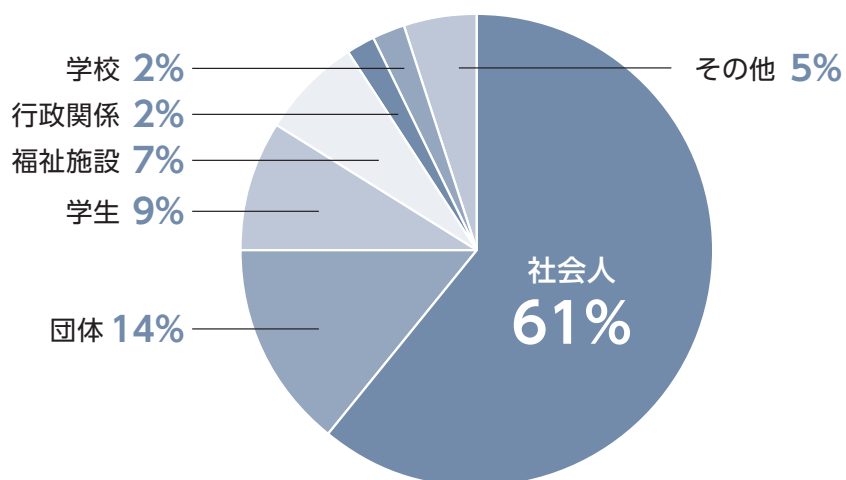
② 年齢



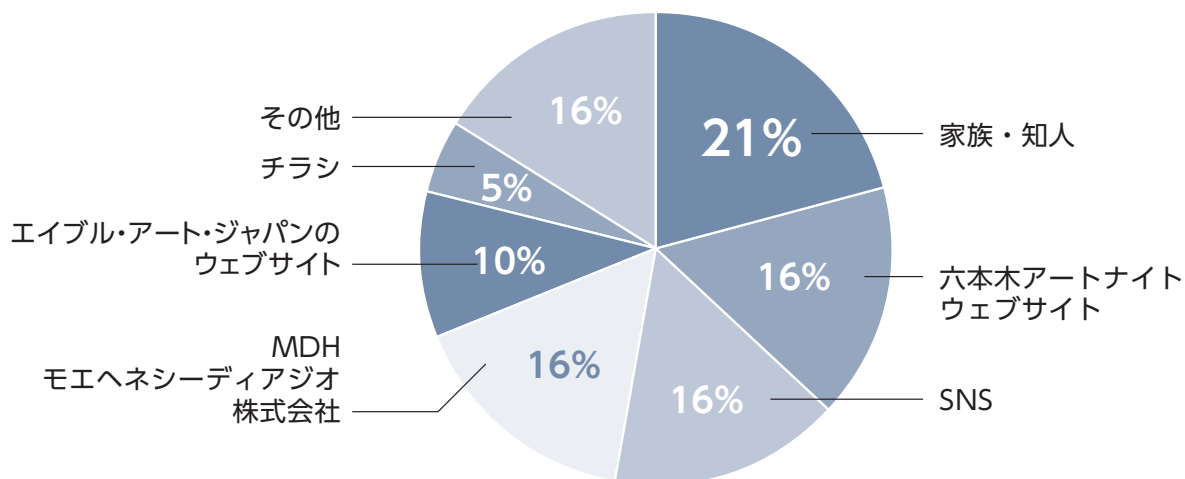
③ 居住地



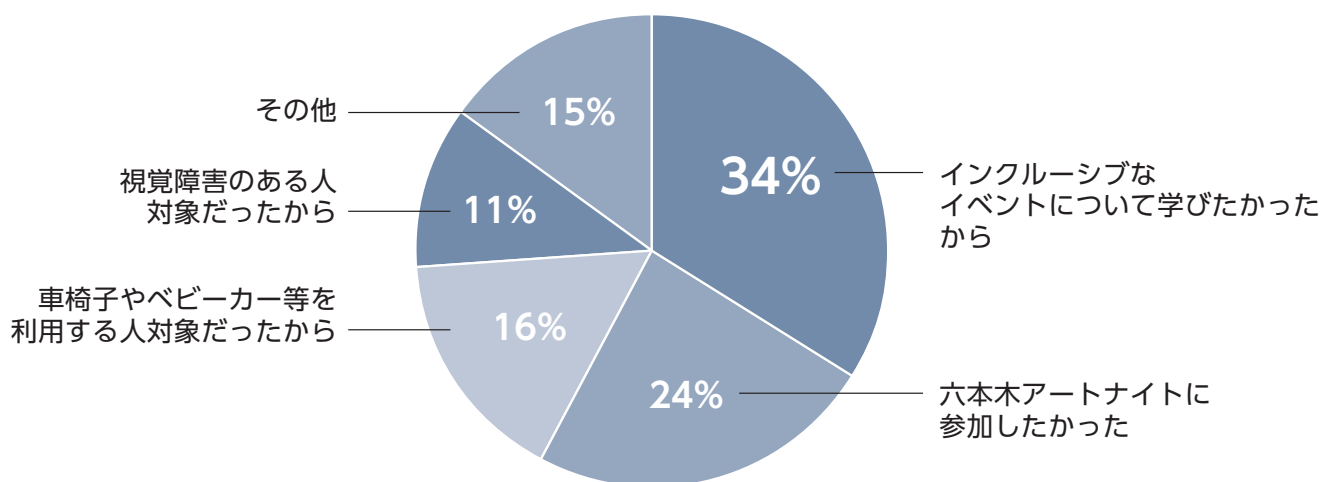
④ 所属



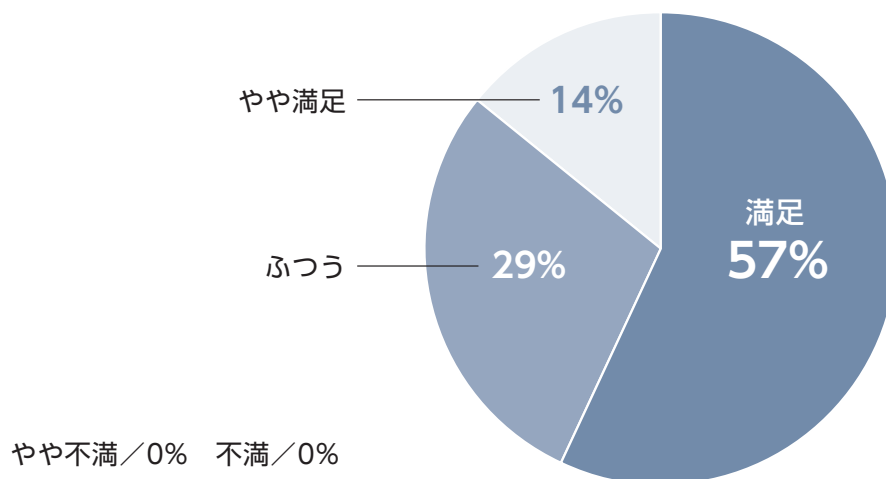
⑤ どこで知ったか



⑥-a 参加しようと思ったきっかけ



⑥-b ツアーの長さ、ルートについて



〈よかった点〉

ちょうどよかった。見るだけでなく、五感で感じる場所。インカムが良かった。

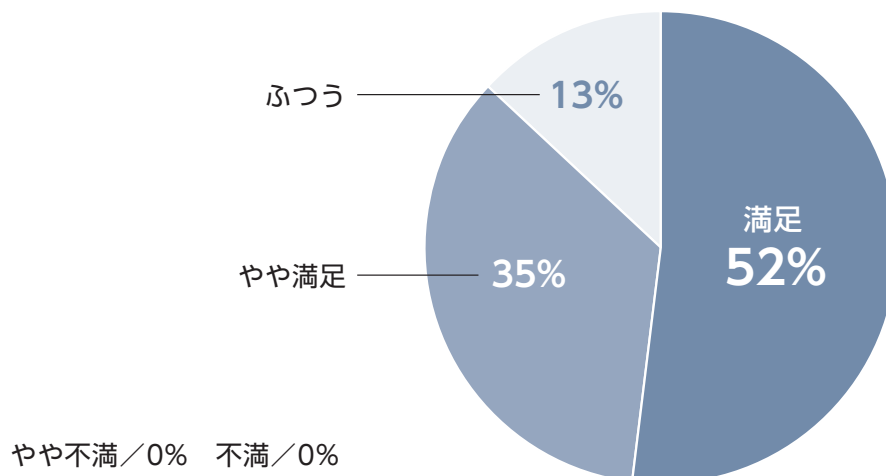
アテンドする方、リードユーザーさんが鑑賞ポイントを先に伝えてくださって、その後に自由にみるという流れが、会話の糸口があってよかった。

〈改善できそうな点〉

もっと作品が見たかった。上下の移動が大変だった。

1時間遅いスタートのほうがアートナイトっぽい。

⑥-c 作品鑑賞について（鑑賞時間や作品選定）



〈良かったところ〉

体験できる作品があった。

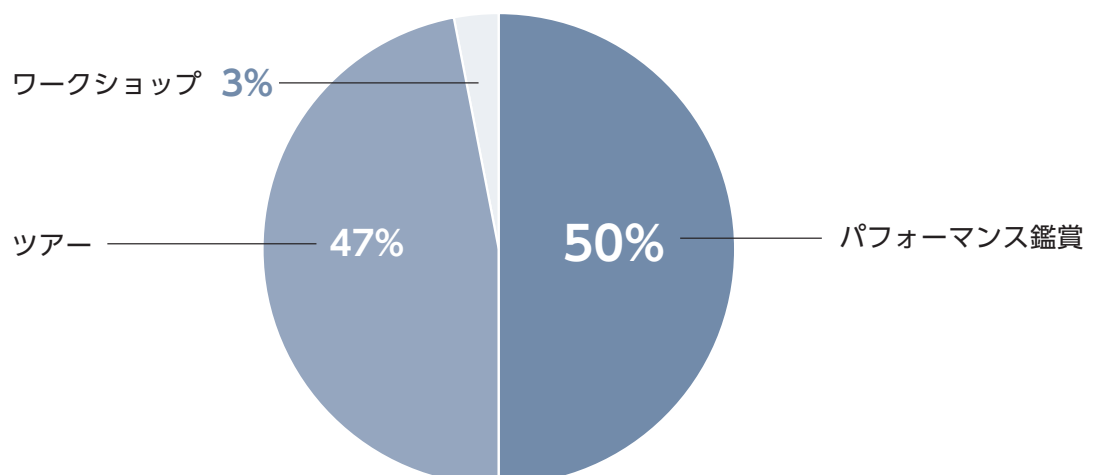
静かに回るのではなく、みんなの意見を聞けたり、自分の感想を話せてとても良かったです。

〈改善できそうなところ〉

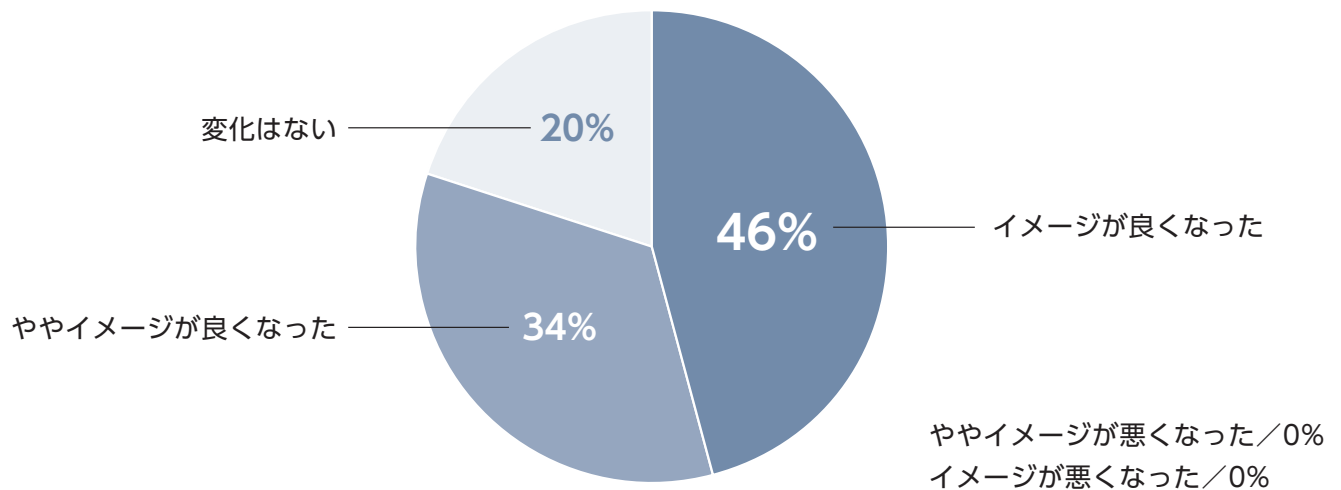
作品の前にグイグイと行くのは難しいので、「遠くから、ここならおもしろく見えるポイントです!」とかも知れたらうれしかったです。

車椅子の方たちのための鑑賞スペースがあったら親切だとおもいました。

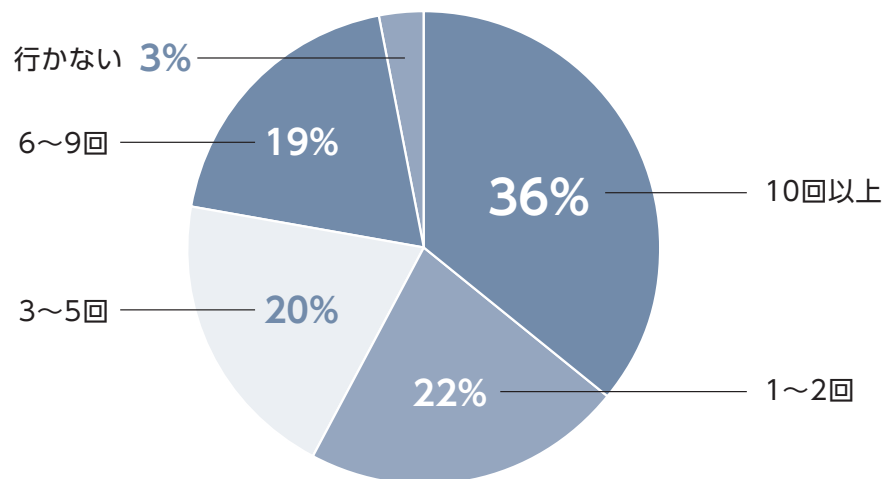
⑦ どのようなプログラムに参加してみたいか



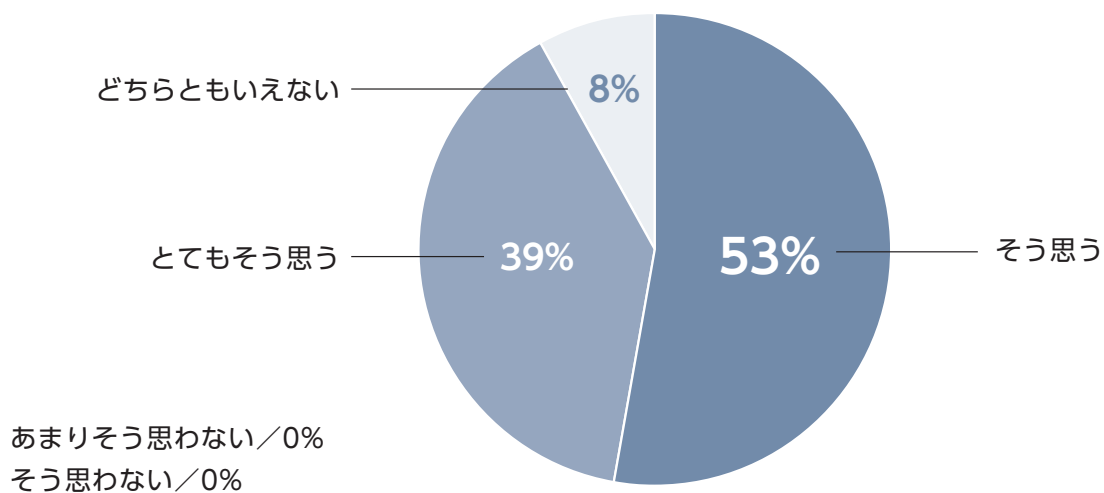
⑧ 六本木アートナイトに参加して六本木の「街」としてのイメージに変化はあったか



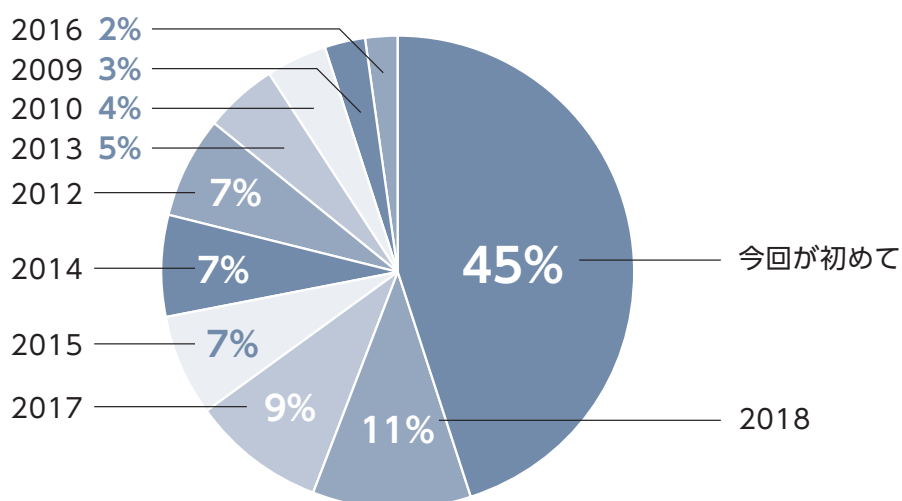
⑨ 1年間で美術を鑑賞する機会



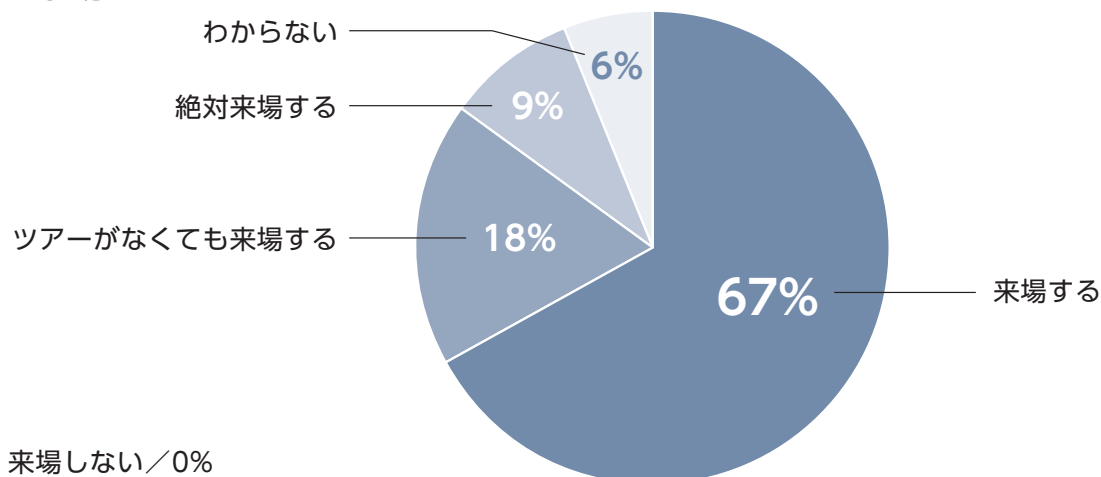
⑩ 美術への関心が高まったか



⑪ 過去に六本木アートナイトに参加した経験



⑫ 次回開催した場合「六本木アートナイト」にバリアフリースターがあれば来場していただけますか



⑬ どのような工夫があると六本木アートナイトに参加しやすくなると思いますか

- ・事前のPR、広告。
- ・休みやすいようにあちこちに椅子を置いてほしい。

⑭ ご意見・ご感想

- ・アートを声に出して表現する機会は普段ないので、とても興味深い経験になりました。
- ・インカムは、主催の挨拶などが聞きやすい一方で、グループ内で話したいときに、インカムからの音が聞こえると少し話づらいです。六本木の成り立ちやツアーで全体を歩くことも面白かったです。

六本木アートナイト2019

■開催日時(メインイベント) 2019年5月25日(土)10:00~5月26日(日)18:00

■コアタイム 25日(土)18:00~26日(日) 6:00

※コアタイムとはメインとなるインスタレーションやイベントが集積する時間帯です。

■開催場所: 六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21DESIGNSIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

■主催: 東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、港区、
六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21DESIGNSIGHT、
森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】

■助成: 令和元年度文化庁国際文化芸術発信拠点形成事業

インクルーシブ・ツアー 報告書

発行: 六本木アートナイト実行委員会

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

森ビル株式会社 森美術館内

URL: <https://www.roppongiartnight.com/2019/>